

# MISSION

社会や経済の情勢が複雑化・多様化している今、行政に「理工系」の視点を取り入れることが急務となっています。

それは、確かなデータに基づいて、国家の将来像を描くこと。

この基礎となるのが“統計”です。  
公的統計は、「社会の情報基盤」として、  
国家・国民の妥当な意思決定を助け、  
社会や経済を発展させる役割を担っています。

合理的に政策の立案・評価を行い、  
効率的に行政運営を推し進めていく——  
そこには理工系の力が不可欠です。

この国の行方を支える基盤づくりにチャレンジしてみませんか。  
あなたにしか描けない未来がきっとあるはずです。

# CONTENTS

I	総務省統計局長から	1
II	行政で活躍する理工系	2
III	官庁データサイエンス最前線	8
IV	若手職員の目線から	10
V	働き方紹介とよくある質問	12

## 新たな時代の統計へ

～理工系や女性が活躍する職場から～

総務省統計局長 **千野 雅人**

今、このパンフレットをご覧になっている方は、多少なりとも就職を考え、思い悩み、そして、数ある選択肢の中から国家公務員という職業に興味を持たれた方であろうと思います。いわゆる文系の職業という印象がある国家公務員の中であって、総務省では、私を含め、理工系の専門性を持った職員が総合職として働いています。理工系の筋道立てた思考力や世界で競う創造力は、データ革命やAIの進化など新たな時代への変革期にある現代であって、特に必要とされる能力です。

理工系の総合職職員が活躍する分野は、統計行政を中心に、行政管理、行政評価、地方行政、選挙、情報通信など多岐にわたります。私自身も、統計の仕事のほか、情報通信部局でケーブルテレビの許認可を行い、内閣官房で総理補佐官制度を立案し、経済産業省に出向して産業デザイン振興政策を推進するなど、いろいろな仕事を経験してきました。

このうち統計行政では、現在、新たな時代に向けた統計制度の大改革を進めています。また、ビッグデータを活用した新指標の開発、統計オープンデータの高度化、データサイエンティストの育成、統計ICTの国際展開など、時代の最先端を行く数多くの取組

を進めています。

一方、統計の重要性は、今後も変わることはありません。国勢調査の結果が公表されると、これを基に、人口の均衡が図られるように選挙区の区割りが改定されます。つまり、統計は、行政施策の基礎であるだけでなく、民主主義の基礎でもあるのです。いつの時代にあっても、統計は、国家の基礎であり、国家そのものとも言えるものなのです。

また、総務省では、テレワークやフリーアドレス、フレックスタイム制など、働きやすい職場環境の整備を各府省に率先して進めており、多くの女性職員が活躍しています。

皆様方のお役に立つよう、職員からメッセージをお届けします。何か興味を引く内容があれば、業務説明会に参加するなど、さらに行動を起こして知識を深めてみてください。

熱意ある皆様とともに総務省で働ける日を、心待ちにしています。  
(今般、公的統計の信頼を損なうような事案が明らかになりました。また、当省の所管する統計においても問題があったことが判明しました。これらについて、重く受け止め、今後、統計の品質向上に取り組んでまいります。)



1984年 総理府採用  
…  
2009年 総務省 統計局 統計調査部 調査企画課長  
2010年 同 政策統括官(統計基準担当)付  
統計企画管理官  
2012年 独立行政法人統計センター 理事  
2015年 総務省 大臣官房 審議官(恩給、統計局担当)  
2015年 同 統計局 統計調査部長  
2017年 現職